

令和6年(2024年)1月9日

令和5(2023)年度 第3学期 始業式 校長挨拶

おはようございます。学校は3月で区切りをつけますので、まだ令和5年度ですが、社会的には新しく令和6年、2024年が始まりました。しかし皆さんも知ってのとおり、元日早々能登半島で大きな地震が起こり、新年の挨拶も少しぎこちないものになってしまいました。被災地の一刻も早い復興と住民の皆さんの健康をお祈りしたいと思います。この地震に関しましては17日の震災講話でまたお話ししたいと思いますので、今日は触れるだけにしておきます。

さて、先生が冬休みあったできごとをお話しします。ある日、家族で近くの回転ずしのお店に行きました。案内されて座ると椅子がガタガタします。あれっと思って後ろの人を見ると目があいました。そのおじさんは「めっちゃ揺れるやろ？今クレーム言うтонねん。」と言いました。しばらくすると店長がやってきて謝罪したうえ、別の席に案内してくれました。私たち家族はそれで十分でしたし、それほど怒る事でもないという気持ちがありましたので、なんとも思いませんでしたし、むしろ「店長さん、そこまでぺこぺこせんでもええで。」と思いました。しかし先ほどのおじさんはそうでもないようです。声を荒げて怒っています。どうも俺様をこんな席に案内するとはけしからんと思っているようです。隣の奥さんと子どもたちも「お父さんもうええやんか」と思いつつ何も言えないという感じでした。きっとあのお寿司はおいしくなかっただろうと思います。これはあくまで一例で、世の中少しのことで怒る人が増えました。皆さんのお父さんやお母さんもそんな対応に疲れて帰ってくることはありませんか？企業の電話対応係の人でも苦情電話にビクビクしてストレスを抱えています。怒りという感情が火事場のバカ力的に事態を解決することもあります。多くの場合、良くない結果に結びついているように思います。私も若い頃、怒りにまかせて感情的になり、後で真相を知って大変恥ずかしい思いをしたことがあります。今、日本人の権利意識が高まり、それが怒りへと結びつくことも増えているようです。

スマホやネットの社会となり、ワンクリックで全ての答えを求められるような時代、社会人として一人前になるには10年くらいかかると思っていますが、それを2、3年で求められる時代。人々の心から「寛容」という言葉が薄れているように感じます。そのような失敗が許されない社会では、みんな一歩引いてしまい、なかなか成長が望めなくなってしまう。新しい年、大久保中学校の皆さんはどうか寛容の心をもった人に成長してくれるよう願っています。

最後になりますが、新しい学期の始まりにあたり、もし何か悩んでいたり、困っていることがありましたら、話しやすい先生にぜひ相談して下さい。それでは3学期も頑張っていきましょう。

以上です。